

(別紙資料)

平成 18 年度以降の教育課程についてのアンケート [集計]

- 各学部等からの回答集計 [16.11.17] -

問1 - 1 . 中間報告の「2 . 基本方針」全体について		
文	問題を「多様化」ととらえることはきわめて重要であろう。文系学生の場合、理系とはまた異なった現れ方をしてくると考えられる。ゆとりのある高校生活で、自由で柔軟な発想をする学生が増えるならば、文系（に限ることではないが）にとっては、また新たなチャンス、可能性が出てくることにつながる。	文
教	基本方針については、賛成である。	教
法	以下の回答は、学部教務委員を中心に、数人の関係者でまとめたものです。時間的余裕がなく、学部全体の検討を経ることができませんでした。したがって、今後、学部としての検討を経ることによって、内容が変わることもありえます。そのようなものとして受け取って頂ければ幸いです。 - 「中間報告」によれば、新学習指導要領に伴い新入生の学力低下が予想され、これに対処するためには基礎的学力の育成が何より重要である。また、学生の学力多様化のもとでこの目標を追求するためには、個々の能力に見合った属人的システムへの移行が必要とされる。このような基本的認識は正当であろう。ただ、問題は、「基礎的学力」の内容であり、「属人的システムへの移行」が具体的に何を意味するかである。 専門教育を視野に入れて考えれば、問題とされる学力の低下は、「関心や好奇心」の低下よりも、知的な議論を理解するための「知識量の低下」や「難解な文章の読解能力の低下」として捉えられるべきである。このように把握するとすれば、重要なのは、「体験型」「創造型」「学際的」授業による関心の喚起というよりも、むしろ体系的なディシプリンの紹介や、重厚な学術文献の読書を中心とした、オーソドックスな教育の比重を高めることである。学生の関心喚起を中心に据えて今後の全学教育のあり方を考えるべきではない。 また、属人的システムが実効的に機能するためには、それを支える人的資源の配分が不可欠である。中間報告は、この点に関して学部の「きめの細かい対応」を「教育上必要な投資」とする。この観点だけが前面に出るならば、いたずらに学部の負担を増やすことで終わる危険もある。	法
経	ステップアップ方式による「基礎的学力の育成」という方針に、賛成します。 ただし、大学院重点大学として学士課程教育の目標をどう設定するかという点については、大学院入学時の学力レベル、大学院教育の目標・役割・あり方、とくに修士課程修了時の学力レベルなどとの関連させた全学的検討が必要だと思います。	経
理	方向性全体について、基本的に可とする。なお、ステップアップ方式と多様な科目を提供することは良いが、マンパワーの問題がある。基本方針の理念の実現には、全学教育に対する公平な負担とTAなどの支援体制の整備が必要である。	理
医・医	賛成である。	医・医
歯	基礎的学力の育成と学力段階別ステップアップ授業はどのような学生が対象であっても有効であり、きめ細かい対応は必要である。2006年問題のためだけでなく、現在学部専門教育カリキュラムを見直し中である。	歯
薬	概ね賛成である。	薬
工	北海道大学の教育の根幹に関わる本課題について"教育改革室平成18年度以降の教育課程検討WG"ならびに"教務委員会教育戦略推進WG教育課程専門部会"の真摯な取り組みに対して敬意を表します。 特に、「平成18年度以降の教育課程について（中間報告）」における、学生の学力が多様化する（幾分低学力の学生が入ってくる）との認識と、それに対応する基礎学力充実のカリキュラム及び学力段階別のステップアップ授業方式の導入には基本的に賛成いたします。 ただし、中間報告から拝見する限りでは、学力段階別授業は導入されますが、英語演習などを除くと、ステップアップ授業については未だ不十分であるようにも思われます。望ましくは、幾分易しい授業を受けた学生にとって、その後、高レベルまで学力を伸ばせる（選択できる）教育の体系化が求められます。中間報告は学力の多様化に併せた、高・低レベルの何れかの講義群を各学部が選択するシステムとして見えます。今回はこの形で進めるとしても、次の段階へのステップアップを期待しています。	工
農	全体の方向性は概ね賛同できる。	農

<p>獣</p>	<p>「基本方針」の骨子は次のように理解される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新学習指導要領による入学者の学力の低下と多様化は必至であり、ともなって学部卒業生に設定すべき学力レベルを低下させることも避けられない。これらに対応するために基礎的学力育成を要とする全学教育の新教育課程を確立するとともに、運動した学部専門教育課程の見直しを実施する必要がある。 2) 教養教育と専門基礎科目からなる全学教育では、入門・中・上級レベルのステップアップ授業により、知識と問題解決能力の確認と補充を図る。そのために、履修単位数上限設定などによる単位の実質化と授業の高品質化に取り組みつつ、現行コアカリキュラム（教養教育）をベースとした新教育課程を構築する。 3) コアカリキュラムを進化させるなかで、学部の壁を超えた第3水準基礎科目としての互換性科目（専門科目）設定を含む理系基礎科目の整備・体系化を行い、学部専門教育に十分な前段階教育課程を形成する。文系基礎科目についても基本的に同様である。 <p>これからの北海道大学における学士課程教育の有りようを見据えた中間報告に至る専門部会の努力と熱意に敬服の意を表し、また多くの優れた面を認めるが、獣医学研究科・学部としては以下に述べるいくつかの点に不明を覚えざるを得ない。</p> <p>(1) 獣医学専門教育との関連性 生命科学など関連領域の進歩や社会ニーズの多様化にともなって獣医学の知識と技術は膨大となり、かつ細分化と多様化が進んでいる。これらに対応できる教育課程、例えば、知識と問題提起・解決能力の育成のための統合的なカリキュラム、臨床カリキュラムの充実や多様化に対応した選択制カリキュラムが獣医学部専門教育の検討課題となっている。具体的な策定にはしばらくの時間を要するが、専門教育課程の初段階、あるいは前段階に位置する全学教育のなかの特に生物学IIIは他の多くの理系学部教育と単純には共通化できない（共通化には大きな変更が必要となる）内容となる可能性があることをご理解いただきたい。</p> <p>この問題は、おそらく医学教育にも存在するのではないだろうか。統合的なカリキュラムは、既に「医学教育モデル・コア・カリキュラム（医学における教育プログラム研究・開発事業委員会、平成13年3月）」に示されているように、日本と世界の医学教育の流れであり、獣医学教育においても全国的な認知に至る可能性がある。こうした専門教育においては広く他学部とカリキュラムを互換する余地は残念ながらなさそうである。</p> <p>一方で、獣医学部は教育に関わる人的資源の絶対的不足という問題を抱えている。獣医学部教員が専門性を生かせる部分で全学教育に携われることは誇りである。しかし、本研究科では大学基準協会の示す獣医学教育基準に満たない教員数で過密な基礎・臨床教育にようやく対応しているのが現状であり、社会ニーズに対応できる世界標準の獣医学教育水準カリキュラムを達成すべく自助努力中の今、全学教育への十分な貢献が可能な状態にあるとは残念ながら言い難い。</p> <p>(2) 「大きく入り入試」との関連性 獣医学部は、先般の学生編成専門部会アンケートに際して「大きく入り入試」に賛成した数少ない学部のひとつである。その趣旨は、「大きく入り入試」後の全学教育課程における切磋琢磨を経て高い意欲、適性、人間性を身につけ、専門教育を受けるに十分な基礎学力を獲得した学生の修学と彼らの専門職業人や研究者としての活躍を期待するからである。「中間報告」では「大きく入り入試」を前提としながらもその実現については曖昧なままであることは残念である。その実現の可否は上述のように教育課程の見直しに直面している獣医学部にとっては当に表裏一体であり、獣医学専門教育再構築、ならびにその一部が重なる全学教育の内容に大きく影響すると考える。確かに、学生編成と教育課程とは内容が別立てではあるが、「大きく入り入試」実現の有無は大きな要素として受け止めざるを得ない。「大きく入り入試」とその後のより明確な教育方針、あるいはその後の本学の有り様を示すことが必要である。</p> <p>(3) 学部専門教育のレベルダウン、大学院の変貌 この「基本方針」は、「新学習指導要領」による2006年問題により学部卒業生の学力が従来よりも低下することが前提となっている。即ち、従来は学部で行われていた専門教育の一部を大学院に移す意味での大学院重点化大学北海道大学とそこにおける学士課程教育が問題となっている。果たして、それは長期的に成り立つことなのであるか？「新学習指導要領」の弊害は広く認められているが、最近になってその修正の方向性を文科相が表明している。基礎的学力の向上、全人教育の達成はもちろん重要であるが、全体に学士課程教育レベルダウンにつながる可能性を残したこの指針が、今になって「学力重視」の方針を打ち出した文科省の方針の下で将来の北海道大学の発展に本当につながるのか危惧される。</p> <p>なによりも、獣医学部をはじめ、国家試験を有する専門職業人養成を使命のひとつとする学士教育課程では学部卒業生の学力低下を容認するわけには到底いかないことを認識していただきたい。</p>	<p>獣</p>
<p>水</p>	<p>特になし。</p>	<p>水</p>
<p>問1 - 1 . 中間報告の「2 . 基本方針」全体について</p>		

問1 - 2 . 各学期毎に履修上限単位数の上限を設けることについて、今後の検討の予定		
文	上限はあってよいが(特に前期に取り過ぎの傾向が見られる), 文学部の場合初年次40単位はとらせてよいと考える。(1年生の標準取得単位34単位プラス6。プラス分はとくに外国語Cなどの履修を考えている。) 専門教育における上限設定も好ましいと考えるが, 具体的には今後の検討にゆだねられる。	文
教	履修単位数の上限の設定時期, 方法および基準について検討中である。	教
法	本研究科は, 本年度に法科大学院を開設し, 来年度には公共政策大学院を立ち上げる予定である。この二つの専門職大学院設置に伴い, 既存の大学院も研究大学院として整備した。そして, このような大学院改革と連動する形で, 学部専門教育についても新カリキュラムをスタートさせた。専門職大学院においては, 入学時点において, 一定の専門知識を身につけていることが想定されている。このため学部4年間に於いて履修すべき科目を減らすことには限界がある。1年次にキャップ制を導入することは, 事実上, 専門教育の準備ないし開始を遅らせる懸念があり, 現時点では, 困難であると判断している。なお, 上の事情を鑑みるに, 長期的には, キャップ制を導入するのであれば, 専門教育にとって必要不可欠な基礎学力を効果的に涵養しうよう, 全学教育の内容が再編されていることが必要であると考え。特に, 専門書の読解力を伸ばすための学術文献講読, 諸学問の体系的紹介など, 伝統的・オートドックスな科目の比重が高められる必要があろう。上に述べた理由により, 現時点では, 困難であると判断しているが, 今後は, 新しい大学院制度および新カリキュラムの成果と問題点を見極めつつ, これにもとづいてキャップ制導入の是非について, 検討をおこなっていきたい。	法
経	基礎的学力の育成という観点から, 全学教育に対して採用することについては賛成します。ただし, これによって留年が増大することのないように, 上限設定には余裕をもたせるように配慮すべきであると考えます。	経
理	平成17年夏頃までを目途に, 教務委員会において検討中。	理
医・医	専門科目にあって, そのほとんどが必修科目であり, 上限設定は困難と考えるもの, 全学教育開講期間である, 1年次1学期~2年次2学期の3期については, 上限を設けることに差し支えはないものとする。	医・医
医・保	各専攻において検討し, 教務委員会でとりまとめた。医療職の国家資格をめざす学科であり, 文部科学省の指定規則のしほりがあるなどの理由により困難であるとの結論になった。	医・保
歯	全学教育期については, 各期ごとに上限を設ける方向で検討することを教授会において合意した。専門教育期については, 現在はすべて必修であり必要がない。	歯
薬	趣旨としては賛成するが, 学部の事情もあり, 今後検討したい。	薬
工	中期目標・中期計画を踏まえて, 1年次について学期ごとの履修単位数の上限を設定する方向で今後検討します。具体的数値は今後の検討課題ですが, 「履修科目の上限, 3年以上の在学で大学の卒業を認める例外処置について(報告)(平成12年6月27日)」において提案されている上限(学期20単位, 1年間40単位)は少なすぎると考えています。なお, 同報告では, 3年次修了時点での卒業要件として「1年次所定の単位を優れた成績をもって修了した学生に対しては, 2年次以降, 上限を超えた履修科目の登録を認め, 3年次修了時点で卒業要件単位を修得し, かつ優秀な成績をもって修得したと認められる場合は卒業を認める」ことが提案されていますが, これに該当するような優秀な学生に対して, 2年次以降の学習の自由度を保障するためには, 1年次の履修単位数はある程度以上の数とすべきであると考えます。「伸びる芽を健やかに伸ばす環境」が北海道大学の特色であると考えています。次に, 履修単位の制限により, 生まれる時間の余裕が, 学生にとって予習復習に充てられるためには, 同時に授業内容の密度を上げ, 演習・レポート等予習復習を求めるなど, 学生の自学自習を促す方策を全学で実施することが必須で, これがない上限設定は学力のさらなる低下をもたらす危険があります。この問題に関して, 教育課程専門部会あるいは全学教育サイドから具体的提案をお示しいただければ幸いです。また, 工学部としては, 1年次学生の履修科目が多すぎるのは, 主として, 学生が学科移行成績を向上させるために生じた結果であると認識し, この問題を取り上げないと抜本的解決策は見出せないと考えています。1年次学生が安易で平均点の良い科目を履修すべく右往左往する現状を打開する具体的な方策が必要であると考えます。さらに, この問題はコース分属条件(平成16年度以前入学生の学科分属条件に相当)にも関係しますが, 工学部では, この問題を十分に考慮し, コース分属条件に全学教育必修単位の最低修得条件を設けることを検討しています。したがって, 当方は, 履修科目過剰の弊害が認められている1年次1期(前期)のみについて履修単位数の上限を設けるのが妥当ではないかと考えられます。以降の学期・年次についての履修単位数制限は, 意図とは逆に, 学習意欲に対するブレーキとなることを危惧しています。	工
農	そもそも学生の授業内容の消化は履修単位数が多いだけの理由によるのか, 単位数の制限だけで改善できるのかどうか, などの検証が不十分ではないか。履修単位数の上限設定は場合によっては学生の勉学の機会を制約することになりかねず, 学生に対する学修指導を徹底するなどの方策をまず考えるべきであろう。また, GPA制度との関連も考えておかなければならない。このような点を考慮の上今後慎重に検討していききたい。	農
獣	全学教育における学期ごと履修単位数に上限を設けることを, それが学力向上につながると信じるのであれば賛成である。	獣
水	検討の予定である。しかし, 1年半後に移行があるため, 多少余裕をもって多めに履修させることになるだろう。学生の中には沢山の科目を聞きたいという意欲のある者もいる。これらの学生の意欲を削がないような対応も必要と思われる。	水

問1 - 3 . 学部専門教育についての今後の検討の予定		
文	問1 - 2 . で併せて回答。	文
教	平成18年度以降の学部専門教育課程について、全学教育との有機的連関、学部専門教育の効果的再編という観点から、見直しを考えている。	教
法	法学部では、本年度から新しい理念に基づく新カリキュラムを導入した。当面はこのカリキュラムの成果を確認することになる。	法
経	全学教育の改定内容が固まった段階で、本格的な検討に入る予定です(現在、来年度の大学院改組に伴う作業を急がなければならないため、学部教育に関しては、早くても本年12月以降になります)。	経
理	平成17年夏頃までを目途に、教務委員会において検討中。	理
医・医	平成15年度入学者から新カリキュラムを適用しており、現行では検討の予定はない。ただし、今回の改革により一部進級要件の検討は必要と考える。	医・医
歯	全国的な共用試験の導入、歯学教育におけるモデルコアカリキュラム、国家試験実施時期の早まり等に対応した専門教育カリキュラムの改変・見直し中であり、全学教育との関係も考慮して検討する必要がある。	歯
薬	薬学部は平成18年度より6年制も導入されるので、全学教育にかかわる専門教育も含めて学部専門教育を現在検討中であり、今後も検討する予定である。	薬
工	工学部では平成17年度から4大学科16コース制に移行する予定であり、このための本年6月専門カリキュラムの見直しを行ってきています。その過程で、平成18年度以降の教育カリキュラムの変更は予想されては居ましたが、具体的な内容は不明のまま来ております。全学教育課程が改訂され、履修単位制限が導入されるのであれば、当然、学部専門カリキュラムの再改訂、特に1、2年次に入っている専門科目も含め再度検討する予定です。平成17年度のカリキュラム改訂において学部専門カリキュラムの骨格は出来上がっていますが、全学教育カリキュラム及び履修単位制限との整合をとるための微修正が必要であろうと考えています。	工
農	コアカリキュラムの変更内容を踏まえて、それとの有機的関連を考え合わせて今後検討していく予定である。	農
獣	問1 - 1への回答1に記載のように、獣医学部においては平成18年度以降の教育課程検討の有無に関わらず獣医学教育の高度化、細分化、社会ニーズの多様化などに対応すべく、研究科教務委員会でワーキンググループを設置し教育課程の徹底的な見直しを始めている。知識と問題提起・解決能力の育成のための統合的なカリキュラム、臨床カリキュラムの充実、多様化に対応した選択制カリキュラム、および国際性の涵養などがその主な検討課題である。	獣
水	学院・研究院構想に伴って、学部も改組する予定である。その際、専門教育についても検討する予定である。	水

問2 - 1 .「論文指導」,「一般教育演習」の整備・充実について		
文	「論文指導」,「一般教育演習」今後も充実化を図るべきである。	文
教	現状では,「論文指導」のねらいや目標,「一般教育演習」との関連や区別について,担当者の認識がまちまちなので,これらの点を明確にすることが重要である。また,「一般教育演習」の開講数を専門に偏りのない形で増加させるべきである。	教
法	とりわけ文系の学生を主たる対象とする「論文指導」や「一般教育演習」は,いかなる文系の学問にとっても不可欠の基礎となる読解力や表現力,すなわちリテラシーの向上を目的とするものに徹すべきであるとする。したがって,学術文献の講読を中心とした質の高い授業の確保に何よりも努めることが先決である。これらの授業を,教員の趣味の開陳にすぎないようなものとするべきではない。	法
経	これらの科目の整備・充実という方向には賛成しますが,教員の教育負担を考えると,そろそろ限界に達しつつあるように思われます。これらの科目の目標である知的スキルの養成については,専門教育を含めた形でも行なう方向を探ることが必要になりつつあるのではないかと考えます。(学部における専門教育の目標をどこに置くかという問題と関わりますが。)	経
理	継続・発展を希望する。	理
医・医	特になし。	医・医
歯	重要であると認識しているが,現状では教員数に対応した応分の担当科目数以上の負担は困難である。	歯
薬	特になし。	薬
工	現在,応分に協力していると考えています。	工
農	特になし。	農
獣	実態をよく把握しないので適切な判断は下せない。大学人の教養として重要なことは明確であるが,必修としての負担をあまり増加させない範囲での整備・充実が望ましい。専門教育の現実に即した論文指導等はもちろん獣医学部教員の責務であり,卒業論文(必修)作成の過程で充分に実施している。	獣
水	特に異存はありません。	水

問2 - 2 - 1 .「文系基礎科目」として提供可能な授業科目の有無(文系のみ)		
文	「文系基礎科目」については,上述の通り,文系学生にとって今回の問題の現れ方はそう単純ではないと考えるので,もし単にやさしい入門のようなものをお考えなら,やや問題であると考えている。基礎科目ということで具体的に何をお考えなのか,なかなか分からない。ものを相当に考える学生にソッポをむかれることのないような基礎科目を展開することは,そう簡単ではない。概説,入門というような科目を設定することには抵抗が多い。従って,現時点でどのような科目を提供できるか,という問いに対しては,回答し難い。むしろどのような科目をお考えかお聞かせ願いたい。従来の分野別科目をいくつか設定して「基礎科目」とするという程度であるならば,反対するものではないが,もろ手をあげて賛成というわけでもない。設定と言うことでカリキュラムが編成されるのであれば,文学部の学生にも履修してもらおうことになる。複合科目中に設定ということであれば,より具体的に各方面との間でつめて行く必要がある。音頭を取って頂きたい。	文
教	「文系基礎科目」なるもののコンセプトがわかりにくく,回答が困難である。明確なコンセプトにそって,具体的な授業科目や授業題目を例示してほしい。例示されたものを見て,コンセプトが理解できれば,学部で対応可能かどうか判断したい。	教
法	持続的・集中的・体系的学習の必要な法学については,他学部の学生と法学部生の双方を対象としてディシプリンの導入となるような授業を行うのは困難であり,また必ずしも適切でないため,本学部が単独で文系基礎科目を提供することは難しいと思われる。	法
経	経済学(2科目程度)・経営学(1科目)の提供を予定しています(ただし,経営学については検討中です)。	経

問2 - 2 - 2 .「文系基礎科目」を自学部学生に履修させるか(文系のみ)		
文	問2 - 2 - 1 . で併せて回答。	文
教	「文系基礎科目」の内容が確定しなければ、判断できない(前項参照)	教
法	どのような内容の科目になるかによる。専門科目にとって必要不可欠な基礎的学力涵養に実効的だと判断すれば、本学部の学生にも履修させる。	法
経	選択科目として履修させます。	経

問2 - 3 . 複合科目の中に文系共通基礎的な授業科目を設けることについて、特に科目提供の可能性について(文系のみ)		
文	問2 - 2 - 1 . で併せて回答。	文
教	「文系基礎科目」以上に「文系共通基礎的な授業科目」の意味内容が理解しにくい。「文系基礎科目」と同様、明確なコンセプトとそれにもとづいた授業科目や授業題目の例示があれば、学部としての判断が可能になる。	教
法	複合科目は学際的な性格を持っているため、その一部を文系基礎科目として位置付けることは適切であると思われる。法学部では現在複合科目を一科目提供しているが、専門職大学院の設置等に伴う教員の負担の増加が著しいことから、これ以上の科目提供は困難である。 学際的な複合科目の設置については、理系系同様、文科系においても、それぞれの学部の取り組みを見た上で、共同でやる方が能率の上がると考えられる部分を合併してゆくという、ボトムアップの手法をとるのがよいと思われる。	法
経	毎年の提供を義務としないのであれば、提供することは可能です。 なお、この科目の担当者は文系学部から出ることが強く想定されているようですが、複合的な内容であること、複合的な問題に対する社会的関心などを考慮すると、理系学部からも担当者が積極的に出ることが望ましいと考えます。(例えば、医療と社会との関係、環境問題、技術と文化など。)	経

問3 - 1 .「入門科目」の設定についてWG提示案以外の希望(理系のみ)		
理	特になし。	理
医・医	特になし。	医・医
歯	特になし。高校での未履修者に対する"入門物理あるいは化学"の導入についての検討が必要になると考えられる。	歯
薬	特になし。	薬
工	将来の大きく入り入試(例えば、物理や化学を選択せずに入学)の可能性や学力の多様化を踏まえると入門科目は必要と考えます。入門科目履修後に通常基礎科目を履修する場合、例えばクォーター制による運用で学期内に追いつかせるなど、通常基礎科目の履修時期を可能な限り遅らせないようにする工夫が必要と思われます。なお、入門科目の内容としては、例えば物理学では力学、熱力学、電磁気学を網羅した講義を希望します。	工
農	理系学生についても入門数学を履修できるようにしてほしい。	農
獣	「解説と質問」には、生物学については「入門科目」は設けない、とある(8ページ)。これは、文系学部(あるいは文系志望)の学生が入門的な生物学教育の機会が不要ということの意味なのか?それともコアカリキュラム中に十分な該当科目の設定があるのか?(カリキュラム編制がたいへんに複雑なので誤解があるかもしれない)現在の高校教育の生物学Iでは「分子」や「イオン」が登場しないという。これからの時代を生きる人間として日常生活のなかでの物事の判断にはこうしたごく基礎的な生物学の教養が必須ではないか?あるいは、それらを重要と認知するための知的基準がなければ、税金で成り立つ科学研究を彼らが支援してくれるであろうか?そういう機会の提供こそ大学学士課程教育のリテラシーにつながるはずである。	獣
水	特になし。	水

問3-2. 学部(学科・コース)別の「基礎科目」コース(専門系/準専門系)選択および提供可能な「互換性科目」(理系のみ)									
物理学		化学		生物学		地学			
理	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	理	
	「互換性科目」の提供【あり】 電磁気学	「互換性科目」の提供【あり】 有機化学	「互換性科目」の提供【あり】 生理学	「互換性科目」の提供【あり】 基礎地球惑星科学 or 現代地球惑星科学入門					
医・医	準専門系[基礎物理学]	準専門系[基礎化学]	準専門系[基礎生物学]	準専門系[基礎地学]	医・医				
	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
医・保	準専門系[基礎物理学]	準専門系[基礎化学]	準専門系[基礎生物学]	- - -	医・保				
	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
歯	準専門系[基礎物理学]	準専門系[基礎化学]	準専門系[基礎生物学]	- - -	歯				
	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
薬	準専門系[基礎物理学]	専門系[互換性科目]	専門系[互換性科目]	- - -	薬				
	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【あり】 有機化学	「互換性科目」の提供【あり】 生物化学	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
工	<p><問3-2. 全般へのコメント> 提案の背景と趣旨は理解しますが、工学部としては、平成17年度に改訂する専門教育カリキュラムの再改訂をも要する重要な選択課題です。したがって、工学部としての正式な回答については十分な審議のための時間的猶予を頂きたいと考えます。そこで、本設問に対する回答は、学科ごとに現在までの検討の中間報告あるいは検討方針を示すに留めさせていただきます。 なお、平成17年度以前の入学生に対して専門系を指定している学科が平成18年度から準専門系に移行する場合には、平成17年度以前入学生の必修科目(物理1・2・3、化学1・2)の単位未習得学生の救済策を保障して頂きたい。例えば、18年度以降の全学カリキュラムの専門系理科を履修させるか、もしくは、18年度以降の専門カリキュラム(今後検討予定)に対応する科目があればそれで単位振替をすること、などをお認めいただきたい。</p>								工
工 応理	専門系 or 準専門系【検討中】	専門系 or 準専門系【検討中】	専門系 or 準専門系【検討中】	準専門系[基礎地学]	工 応理				
	「互換性科目」の提供【専門系の場合、あり】	「互換性科目」の提供【専門系の場合、あり】	「互換性科目」の提供【専門系の場合、あり】	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
	<p><コメント：応用理工系学科> 検討中の科目で専門系を選択する場合には互換性科目を用意する予定。必修・選択および指定科目数も検討中。</p>								
工 情エ	専門系[互換性科目]	準専門系[基礎化学]	準専門系[基礎生物学]	準専門系[基礎地学]	工 情エ				
	「互換性科目」の提供【あり】 電磁気学	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】	「互換性科目」の提供【 - - - 】					
	<p><コメント：情報エレクトロニクス学科> 物理学は2科目(物理1：力学、物理2：熱力学)を必修とし、電磁気学を学科専門科目(互換性科目)として開講する予定。</p>								
工	準専門系[基礎物理学]	準専門系[基礎化学]	準専門系[基礎生物学]	準専門系[基礎地学]	工				

機械・環境	「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		機械・環境
	<コメント：機械知能工学科・環境社会工学科> 物理学・化学はともに2科目必修，生物学・地学は1もしくは2科目選択の可能性が高い。								
農	準専門系[基礎物理学]		準専門系[基礎化学]		準専門系[基礎生物学]		準専門系[基礎地学]		農
	「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		
獣	準専門系[基礎物理学]		準専門系[基礎化学]		専門系[互換性科目]		準専門系[基礎地学]		獣
	「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		
<コメント> 現在，獣医学部は物理学，化学，ならびに生物学を必修としているが，地学は必修科目に指定しておらず，今後もこの方針に変化はない。このカリキュラムでは準専門系として必要になるのか？									
水	準専門系[基礎物理学]		準専門系[基礎化学]		準専門系[基礎生物学]		準専門系[基礎地学]		水
	「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		
問3 - 2 . 学部 (学科 ・ コース) 別の「基礎科目」コース (専門系 / 準専門系) 選択および提供可能な「互換性科目」(理系のみ)									

問3 - 3 . 広い意味で提供可能な「互換性科目」						
	物理学	化学	生物学	地学	数学	
文						文
教						教
法						法
経					広義の「互換性科目」【 - - - 】	経
理	<p>広義の「互換性科目」【あり】</p> <p><コメント> 殆どすべての講義科目が「互換性科目」足り得る。 他学部・他学科に対して閉じた授業は行っていない。</p>					理
医・医	広義の「互換性科目」【なし】					医・医
医・保	広義の「互換性科目」【なし】					医・保
歯	<p>広義の「互換性科目」【なし】</p> <p><コメント> 歯学部での、基礎医学を含めた各授業科目は、60名のクラス単位で学年進行する歯学部学生に対して最適と考えられる内容で開講されており、このまま互換性科目として他学部学生に開講するのは困難である。</p>					歯
薬	広義の「互換性科目」【なし】					薬
工	<p>広義の「互換性科目」【特定の科目名を挙げるためには具体的な検討が必要】</p> <p><コメント> 「広い意味での互換性科目」をどのように設定するか、学部一貫教育、大学院教育とのつながりの観点からもう少し具体的な検討をしないと、特定の科目名を挙げることはできません。工学部で開講する専門基礎科目のうち他部局から見て該当のものがあれば、「広い意味での互換性科目」として取り扱っていただくことは構いません。ただし、クラス収容人数の関係からある程度の受講制限を設けること、授業内容は開講学科の学生を対象として設定すること、などは容認して頂きたい。また、工学部から他部局の科目を互換性科目と設定させていただくこともあり得ますが、当然のことながら、この場合の受講制限および授業内容については当該部局の判断に委ねます。 なお、設問の趣旨と異なりますが、他に適当な設問項目が見当たりませんので、数学についての要望を述べさせていただきます。現在工学部3系に関して開講されている微分積分学IIIの内容は、厳密に論理を展開する能力を習得することにおいて関係学科にとって必要不可欠なものであり、特に、Epsilon-delta 論法や級数の収束に関しては専門教育を行う上で大学初級段階において習得を期待する重要事項であります。しかし、一方では、新しいカリキュラム上でこれまで同様の開講することは人的資源の制約などから難しいことも承知しています。したがって、懇談会で提案のありました「数学概論」で、同内容を講義していただくことを要望いたします。</p>					工
農	<p>広義の「互換性科目」【具体的な科目名を現段階であげることは困難】</p> <p><コメント> 前向きに検討していきたいが、履修学生数がどのくらい増えるのか等の見通しがたたないこともあり、具体的な科目名を現段階であげることは困難である。</p>					農
獣	広義の「互換性科目」【なし】	広義の「互換性科目」【あり】	広義の「互換性科目」【あり】	広義の「互換性科目」【なし】	広義の「互換性科目」【なし】	獣
	<p><コメント> 「生化学」、「生態学（保全生態学）」などを互換性科目候補とする。このほか、いくつかの案を提出可能ではある。ただし別記1-1回答のとおり、2年次前期限定となると、共通化できる学部は少ない可能性が高い。</p>					
水	広義の「互換性科目」【 - - - 】	広義の「互換性科目」【あり】 有機化学	広義の「互換性科目」【あり】 細胞分子生物学、動物発生学	広義の「互換性科目」【 - - - 】	広義の「互換性科目」【 - - - 】	水
	<p><コメント> 開講可能かどうかかわからないが、上記の授業を学部専門科目として行っている。</p>					

問4 - 1 .「コアカリキュラムの一部」としての「融合型」の「自然科学実験」について（理系のみ）		
理	「責任部局」として具体策を検討したい。	理
医・医	特になし。	医・医
歯	従来は物理学，化学，生物学実験から2科目以上を必修としていたが，自然化学実験として内容がうまく組み立てられれば，大きな視点で見る機会となり効果的であるとする。	歯
薬	「融合型自然科学実験」の内容が示されていない現状では返答はできない。	薬
工	<p>融合型自然科学実験に対しては学科ごとに賛否が分かれ，賛否ともに理由は学生に対する教育的配慮であることから，現時点では，工学部としての統一見解を示すことは困難です。そこで，両論併記となりますが，両論が分かれた背景を説明し，合意点を図るための検討事項を示すことにします。</p> <p>工学部では平成17年度のカリキュラム改訂において，学生の多様な要望に対処するために，複数の教職課程（工業，理科，数学，情報）に対応可能なカリキュラム編成を行うことを目指し，学科ごとに複数種目の教職認定を申請しています。特に，カリキュラム編成の段階では平成18年度以降の教育課程の改訂方針が明らかでなかったため，従来の理科実験（物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験）の継続を前提として，これらと専門カリキュラムとを総合的に判断した上で，認定可能な種目を選択して教職課程カリキュラム編成を行いました。認定申請した教職の種目は学科で異なりますが，結果として，理科実験に対する重み（選択の自由度の意味を含めて）も学科で異なることになります。</p> <p>中学理科の教職認定においては，物理学・化学・生物学・地学の4科目の実験の修得が不可欠ですので，中学理科の教職認定を目指してカリキュラム編成を行ってきた応用理工系学科にとっては従来の理科実験4科目から融合型自然科学実験（2単位）への移行は当然賛成することはできません。また，物理学実験・化学実験の科目指定された実験を重視した情報エレクトロニクス学科は科目が明示されない自然科学実験（2単位）でなく，例えば，自然科学実験(物理)1単位+自然科学実験(化学)1単位のような科目を明示した実験を必要としています。これらは学生の要望の多様性を考慮して学科として十分な審議の上で決定されたものです。したがって，これらの学科の教育的配慮を損なわない対応策，例えば，融合型自然科学実験と科目明示型の実験を併設し，さらに，工学部で困難な実験について従来の実験科目との関連でご相談させていただくこと，などについて検討いただきたい。</p> <p>なお，機械知能工学科及び環境社会工学科は，融合型の自然科学実験（2単位）の導入に賛成し，必修科目として指定する予定です。両学科では，学生に幅広い実験を課すことの教育的意義を重視していますが，ともに，教職認定の種目の関係から理科実験の制約が少ないことが判断の背景にあると言えます。なお，両学科ともに導入する場合の開講時期に関しては，関係者間での協議も含めて，今後検討する必要があると考えています。</p>	工
農	全科目融合型の実験が具体的にどのような内容なのかイメージできない。現状での運営が困難なのは理解できるが，2科目で1単位とするなど個々の単位数を減らしても個別の実験を維持する努力をお願いしたい。あるいは全科目を融合させるのではなくせめて化学 - 生物，物理 - 化学の組み合わせのような2科目融合型実験の可能性は考えられないだろうか。	農
獣	やり方次第で有意義になり得るだろうが，現段階では具体性に乏しく判断が難しい。あえて「融合型」とする理由が実感できる内容であり，学生の科学に対する好奇心や問題提起・解決能力につながるものであれば幸いである。	獣
水	特に異存はありません。	水

問5 - 1 - 1 . 英語新カリキュラム(案) - 1年次開講の「英語」について		
文	「英語」を実力に応じたクラスを編成して行うことに賛成である。	文
教	A：発信型基礎科目およびR：リーディングのクラスサイズ(40～50名)が大きすぎる。とくに、A：発信型基礎科目で授業効果をあげるとすれば、現行の「一般教育演習」並のクラスサイズが上限になるのではないか。	教
法	多様な教育方法を組み合わせながら英語教育の充実を図るということは有意義であるし、1年次の教育をより魅力的なものにしようということも理解できる。ただし、重要なのはその組み合わせ方であろう。発信型授業とCALL授業によって1年次前半の語学習得を進めることは、半面ではリーディングの基礎を作るという点では弱くなることも考えられるので、このあたりをどのように連携させてゆくかについて工夫が必要である。	法
経	「学力の多様化」の中では、学習のインセンティブが低い学生も相当数含まれることになると考えられます。改革案では自習の割合が高くなる方向が示されていますが、何らかの形で自習のインセンティブを高める工夫が必要と考えます。	経
理	特になし。	理
医・医	特になし。	医・医
医・保	方針に賛成である。	医・保
歯	特になし。(有効に機能すれば成果が上がると思う)	歯
薬	基本的に賛成である。	薬
工	提案に賛成します。	工
農	特になし。	農
獣	現在の優秀なはずの獣医学部学生にも特にライティングとスピーキングに相当な格差を感じる。飛び抜けて高度なレベルは要求しないが、普通に読み書きができるレベルに実質的に達して欲しい。徹底的なリーディングやネイティブとのスピーキングの経験は特に重要に思われる。	獣
水	「A」、「R」、「E」の不合格者に対して、すぐ次の学期に再履修クラスを設けてほしい。すなわち、1年半の間に最低2回の履修の機会を作ってもらいたい。	水

問5 - 1 - 2 . 英語新カリキュラム(案) - 自学自習のCALL授業, TOEFL-ITP試験による単位認定について		
文	基本的に賛成であるが, CALLのような授業がどの程度効果があるのか, oldgenerationにとっては見当がつかない。語学(だけではないが)は教師と学生が向き合っていく,(あるいは積極的に留学を進める手もある, がこれは直接「教育」には関わらない)のが一番であろう。(それができないから問題なのだとされるであろう)	文
教	自学自習のCALL授業の積極的活用には賛成である。しかし, 単位認定の方法については慎重な検討が必要である。	教
法	TOEFL試験の導入は効果的に行えば有意義であると思われる。ただし, 問題は受験時期, 単位認定への利用であろう。学期の区切りごとにTOEFLを受験させて学習の目安にすることは有意義と思われるが, その一方で特に1年次前期の授業がTOEFLの受験準備のためだけににならないように注意する必要があるだろうし, 単位認定の基準点に関しても注意してほしい。 CALL授業の意義もその利用の仕方に依存するだろう。特に教員によるサポートやチェックの体制がしっかりしなければ, 自習効果は十分とは思われないので, 注意してほしい。そのような体制を作ることなく, 高価な機械を購入した以上使わないわけにはいかないという理由でCALLを推進するのであれば, 明らかに本末転倒である。またCALL自体決して完成度の高いものではないと言われており, このシステムだけでどこまでの教育効果を期待しうるかについては, 慎重な判断が必要であろう。 なお, 「中間報告」は, CALLによる自習を前面に出しすぎている嫌いがある。機械で身に付くタイプの語学力が(身に付くとしての話だが), 「専門外国語」による高度な討議に直ちには結びつかないことは, 大学人であれば分かっているはずである。本当に「専門外国語」による高度な討議の能力を身につけさせたいのであれば, 担当教員の工夫と熱意に支えられた質の高い授業が不可欠である。語学教育改革で著名な東京大学教養学部においては, まさにそうした自覚の下で改革が進められているのではないか。このように考えれば, 言語文化部の教員に期待されるものはきわめて大きいといわなければならない。CALLによる自習を強調する「中間報告」が, これと反対の方向を向いているのではないことを願っている。	法
経	単位認定については異存ありません。ただし, TOEFL-ITPは外部の試験ですので, 免除になる単位分を北大での他の学習に充てるような工夫が, 全学レベルであってよいと思います。(例えば, 「英語演習」や基礎科目などの履修を求めるなど。)	経
理	基本的に賛成する。	理
医・医	特になし。	医・医
医・保	方針に賛成である。	医・保
歯	特になし。(有効に機能すれば成果が上がると思う。)	歯
薬	自学自習のCALL授業は時として"さぼり"の温床となる可能性もあるので, TOEFL-ITP試験などにより単位認定は厳格にすべきである。	薬
工	自学自習のCALL授業の実施, TOEFL-ITP試験による単位認定は学生への教育面で新たな試みとして評価します。また, 1年次2学期学期末のTOEFL-ITPで成績優秀なものは2年次2単位を既修得と認定することにも賛成します(ただし, この認定された単位は履修単位制限の枠外として取り扱われることは当然であると解釈しています)。 学力段階別, ステップアップ授業として最も実現しやすい科目と考えますので, 4年間あるいは大学院に於いても, 学力がステップアップ出来る体系化をお願い致します。例えば, 工学部関係の複数の大学院専攻では, 学生へのインセンティブを図るため, 大学院入試に英語試験の代替としてTOEFL試験のスコアを提出させることも検討中です。 次の段階として, 単位認定における合格要件の目安や不合格学生に対する指導方法などの具体像をお示しいただきたい。また, 優秀な学生にさらに高い目標を与えるための方法については, 全学教育のみならず学部教育を含めて今後さらに検討する必要があると考えています。さらに, Callシステムのさらなる有効活用として, 学部学生, 大学院学生に使いやすい運用体系と継続的成績向上への方策等もお示し願います。	工
農	CALL自習, TOEFL-ITPの活用には賛成である。	農
獣	修学状況の評価が難しく結果オーライの評価になるかもしれない。チューター等の導入が適切なのか, あるいはそれは困難なのか不明だが, 評価体制の整備が大切である。	獣
水	学習状況のチェックなどについてはどのようにするのか? 単位認定はこの方法は客観性があると思う。	水

問5 - 1 - 3 . 英語新カリキュラム(案) - 「英語演習」について、「英語演習」への学部教員の支援・協力の可能性について		
文	「英語演習」に、現在の全学教育負担の枠内で、学部教員が参加することは結構なことと考えている。	文
教	教員の数が限られている上、全学教育・教職科目・国際交流科目に多くの教員の労力が割かれているため、現状では困難である。	教
法	法学部はすでに2・3・4年を対象として基礎セミナー(英語、独語、仏語、中国語、ラテン語などの基本的原典講読)を行っているし、また今年度から外国語応用演習(英語、独語、中国語=外国語で授業を進める。全学年および大学院むけ)も始めている。これらの授業の中で英語に関するものを「英語演習」として1年生などにも開放し単位読替をすることは、学生が殺到して授業が破綻するようなことがない限りは可能であるし、能力の高い学生には望ましいことであるだろう。しかし、これら以外に新たに「英語演習」を開講し協力するということは、法学部の教員負担の現況からして不可能である。	法
経	この科目の充実については異存ありません。学部の全学教育全体に対する負担を現行から変えないという前提の下で、担当者を出すことは可能です。	経
理	HUSTEP科目を積極的に提供し、全学教育科目としても活用している「英語演習」について支援・協力の予定はない。学術研究のツールとしての英語は分野ごとに異なるので、学部専門科目として教育することが望ましい。	理
医・医	本学部教員の担当は困難である。	医・医
医・保	学科英語の構築を検討中であるため、全学教育への支援は難しい。	医・保
歯	「英語演習」は使える英語を目指すという点から良いと思う。"支援・協力"については、現状でも小さな学部での教育負担は相当に重く、英語演習の担当は困難である。	歯
薬	薬学部では専門に即した「薬学英語(必修、2単位)を既に開講しており、これを「互換性科目」として支援することも可能と考えられる。	薬
工	専門教育の充実をも考慮すると、「英語演習」への学部教員の支援・協力の可能性は低いと回答せざるを得ません。	工
農	学部の英語演習は専門性が高く、英語力だけではついていけない恐れが多分にある。内容の見直し等で協力可能かどうか、今後さらに検討していきたい。	農
獣	獣医学領域においては専門用語が膨大であり、専門教育の進行にともなってリーディング、ライティング等習得が進むものである。学術研究ツールとしても同様であり、専門教育と並行してこそ理解度が高まるはずである。論理的な議論や論文英語の文法/理論展開についての習得は有用かもしれないが、テーマ設定などをうまくやらないと結局は何も残らぬ可能性もある。いずれにせよ、学部での教育と接合させる必然性はないであろう。人的資源についても前述のとおり厳しいのが現状である。	獣
水	2年1学期の「英語演習」への支援は困難であるが、不合格学生に対して、移行後に学部の方で支援・協力することにはやぶさかではない。	水

文	初習外国語，ますます充実を図って頂きたい。	文
教	言語文化部で作成中の具体案をまって，検討したい。	教
法	従前どおり基礎力の涵養を重視した教育を洗練させてほしい。担当教員の趣味に走るような授業であってはならない。質の向上に努めて欲しい。	法
経	特にありません。なお，上級レベルの特別講義について，高学年学生・大学院生が履修しやすいように，時間割等のいっそうの工夫をお願いします。	経
理	特になし。	理
医・ 医	特になし。	医・ 医
歯	特になし。	歯
薬	特になし。	薬
工	特になし。	工
農	特になし。	農
獣	主に教養としての位置を占めるであろう。	獣
水	これについても5 - 1 - 1と同様に次の学期に再履修のクラスを作ってほしい。	水

文	問6 - 3 . で回答。	文
教	「情報教養教育研究会」で作成中の具体案をまって、検討したい。	教
法	平成18年度から高校教育において基本的なコンピュータ・スキルを身につけた学生が入学してくることに鑑み、大学においては、それを踏まえて、社会における自由な表現を支えるインフラとしてのインターネットの意義、並びにプライバシーの保護および知的財産の扱いに関する法や倫理について考えさせるとともに、情報を的確に理解するための批判的思考能力を涵養し、必要な行動指針を身につけさせることが求められるのであり、このような内容を含むカリキュラムが作成されることが望まれる。	法
経	「専門課程での学習に生かせるレベルの情報の扱い方や情報検索」に関する基本的なスキルを修得させることに重点を置いた教育内容を期待します。	経
理	スキルについては、専門性との関連において検討されるべきである。また、専門分野にとらわれない基礎を教育すべきである。	理
医・医	特になし。	医・医
歯	特になし。	歯
薬	多くの学生がコンピューターの扱い等を既に学習しているので、それに基づいた具体案を出してほしい。	薬
工	通年4単位の案のみが示されていますが、学期2単位を2科目もしくは学期2単位を1科目など複数のシナリオについて、それぞれの利点と問題点も示して頂きたい。工学部としての具体的検討はそれらの提示後となります。また、単位数（開講時間数）によっては、非常勤講師の数が問題となると思います。同等の非常勤講師俸の手当が、実験にも適用できれば望ましいと考えます。また、これまでは学生がパソコンを全く知らないという前提で実施されていましたが、高等学校における情報教育も考慮して、最初に能力検定し、レベルにあった教科を選択できるようにするなどの方策もご検討いただきたい。	工
農	特になし。	農
獣	情報の海に溺れることなく、情報選択の重要性を理解する内容としていただきたい。	獣
水	特になし。	水

教	特になし。	教
法	統計学的素養は、公共政策大学院などでも重視されているものであり、文科系の学生にも不可欠のものである。教育の充実を希望する。	法
経	<p>統計学担当部局として、時間割に関して次の要望をいたします。</p> <p>1. 現在の時間割で前期に担当されている学部・系を後期に、逆に後期に担当されている学部・系を前期に担当するような変更は可能か。 例：現在、水産学部は後期に担当されているが、函館への移行を考えると受講機会が増える前期担当が望ましい。</p> <p>2. 現在、統計学は1クラス100人前後を対象として授業を行っているが、統計学を必修にしている学部・系とそうではない学部・系では履修者数に大幅な差が出ている。履修者数を平準化するために、時間割の変更を要望する。</p>	経
理	特になし。	理
医・医	特になし。	医・医
医・保	医療統計学へつなげる基礎教育として必要である。	医・保
歯	高度な内容より、使える統計学であることが重要であるとする。	歯
薬	特になし。	薬
工	特になし。	工
農	統計ソフトの使用法、データ処理法など実際の統計処理能力を養う「統計学演習」のような科目を設定してほしい。	農
獣	設問の意図が不明。ただし、全学教育で「統計学」を履修しているにもかかわらず獣医学部の教育に必要なレベルの統計学の知識を学生が持ち合わせていないことに愕然とすることは事実。例えば、「標準偏差」すら聞いたことがないという学生が少なくない。統計学の専門教育は不要だが、それぞれの専門教育に要求されるリテラシーレベルには達してほしい。	獣
水	特になし。	水

文	インターンシップを工夫拡大していただきたいという声があった。	文
教	体育学科目においてスポーツ科学全般の知的素養を高めるための講義形式の科目の開設を検討中である。	教
経	<p>経済学部における数学教育の内容を含め、以下については数学科に既に申し出ていますが、要望事項を挙げておきます。</p> <p>1. 1年次の科目編成を次のようにすることを希望いたします。</p> <p>1年目前期 入門線形代数学, 入門微積分学 1年目後期 線形代数学I, 微積分学I 「入門線形代数学」「入門微積分学」は、要履修科目の指定をする方向で検討しています。数学科から、「線形代数学I」「微積分学I」の履修要件を、それぞれに対応する「入門線形代数学」, 「入門微積分学」の合格とする旨の要望があった場合には、本学部として許容いたします。</p> <p>2. 「入門線形代数学」「入門微積分学」「線形代数学I」「微積分学I」を基礎科目または共通科目として開講することを希望いたします。 「入門線形代数学」「入門微積分学」を基礎科目とすることができない場合には、分野別科目(「科学・技術の世界」)ではなく、共通科目とすることを要望します。これは、本学部における数学教育の位置づけを明確にするとともに、学生に受講の必要を意識させ、学習のインセンティブを高めるためです。</p> <p>3. 「線形代数学I」「微積分学I」の合格者については、アドバンスド・コースとして、「線形代数学II」「微積分学II」を履修できるようにすることを希望します。 開講時期は2年次前期が望ましいと考えます。なお、カリキュラムの編成上やむをえない場合には、理系クラスと合同で差し支えありません。</p>	経
理	特になし。	理
医・医	特になし。	医・医
歯	特になし。	歯
薬	特になし。	薬
工	<p>今後のさらなる展開のためには幅広い意見聴取が肝要であると考えますので、本アンケート回答作成において、学科・教員から示された意見を原文のまま列挙させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部一貫教育として、各学部として閉じた中での議論と、互換性科目の設定に違和感があります。今後の学院構想とも関連しますので、大学として学部教育にどのような共通性を求めるのか、方針がありましたらお示し戴ければ幸いです。 根本的理念は、1, 2年次の教育課程をできるだけ全学で支援することにあるような印象を受けました。しかしこれまで専門課程のみを教育してきた教員にとって通常の状態での一般教育は困難でないかと考えます。それを克服する最も大きなモチベーションは、学生が将来自分の専門を学んでくれるという見返りではないでしょうか。 1, 2年次の教育で最も欠けていることは、教育体系やカリキュラムの充実といったことも必要ですが、これまでにない、きめ細やかな対人関係での教育ではないでしょうか。遠友夜学校に見られるような、寺小屋的教育をすることにより、北大独自の教育システムが完成すると思えます。 	工
農	内容と評価の教員による不統一を是正していく努力が必要ではないか。	農
獣	特になし。	獣
水	特になし。	水

問7.平成18年以降の教育課程全般について

教	特になし。	教
理	本学部としては、入学者選抜制度及び教育課程について、平成18年度から、全面的改正を予定しているので、「大括り入試」等、これらに関する早期の変更は望ましくない。	理
医・医	当該期に開講されている授業科目の単位が認定されなかった場合、次学期に再履修できる体制を構築していただきたい。 現行では、次年度同期でなければ再履修できない外国語科目等について、特にご検討いただきたい。	医・医
医・保	目的意識の明確な学生が入学する保健学科に大きく入り入試の必要性を認めない。	医・保
歯	歯学部学生において学生の学力の多様化がどの程度進行するのは不明だが、重要な問題として対応していく必要があると認識している。	歯
薬	特になし。	薬
工	問6-3.で併せて回答。	工
農	「大きくり案」との関係が不明確であり、「専門、準専門」のコース分けなど場合によってはまた数年で見直しをせまられることにはならないのだろうか。	農
獣	(1) 入学する学生の学力低下は大学教育課程の主役である彼ら自身にとってこそ最大の悲劇である。これが単に「新高等学校指導要領」に基づく高校教育のみならず、評価・総括なしに改訂を繰り返してきた「学習指導要領」全般に起因することは間違いない。このことに対する批判から、「学習指導要領」は中教審常設部会で常に小改訂を行う方針に転換した。また、「基本方針」3ページB項に学力多様化の根拠として記載されているとおり、指導要領の基準は“下限”であると解釈されるようになってきている。これらのことは、いかなる学力をもった学生を受け入れるか、広くは如何なる学習要領が望まれるかを、大学とその教員として常に明確に述べる責任が増していることを示している。大学法人として、現実には当面やはり学力の低下・多様化した入学者を受け入れざるを得ないにせよ、こうした不断の努力を欠かすべきではなからう。「中間報告」は2006年問題への対応を前提にまとめられたものであるが、同時に北海道大学における学士課程教育の中長期展望を示すものでもある(序、1ページ)。だからこそ、北海道大学はどのような学生を期待するか(具体的にはどのような基準を入学試験に置くか等)、学習指導要領に如何なる改訂を求めるとかという言及による社会的提言も教育課程の議論のなかで必要になるのではないだろうか。 (2) 「学部一貫教育」という言葉がみられるが、例えば外国語科目(12ページ)のように意味や意図が理解できない、あるいは不適當と思われる部分がある。	獣
水	現在では、外国語の履修状況を中心にクラス編成されているが、英語が習熟度別のクラスになるとクラスの学生がばらばらになってしまうことが心配だ。現在でもなかなか友達が出来ない学生が見られるが、その辺の対応についてはどのように考えているのか?もう大人だから自己責任で行動しろと言いつつ、あるいはクラスごとに何か授業、ボランティア、総合演習などを通してクラスメイトの絆を強めるような教育措置は必要ないだろうか?	水

以下、学部からの回答以外に、ご意見を寄せてくださった先生方（3名）のアンケート回答集計(16.11.12現在)です。

1. 教育学部 須田 力 先生...体育学科目責任者として、お寄せいただきました。（ご意見は、表中の“教”欄に記載。）
2. 留学生センター 中村重穂 先生 ...留学生センター教員の意見を集約したのものとして、お寄せいただきました。（ご意見は、表中の“留”欄に記載。）
3. 北方生物圏フィールド科学センター 上田 宏 先生（ご意見は、表中の“北セ”欄に記載。）

問1-1.

問1-1. 中間報告の「2. 基本方針」全体について

教	学力に応じて細分化された科目履修だけでは、授業にたいするモチベーションは高まりません。入学してきた学生一人一人が、自分の進む学部でどのような基礎学力が要求されるのか理解させる情報の提供がこれまでよりさらにきめ細かになされる必要と考える。	教
北セ	現代的教育ニーズ取組支援プログラムで採択された「北方地域人間環境科学教育プログラム」なども取り入れて、北大が目指す教育の特色を出すべきである。	北セ

問1-2.

問1-2. 各学期毎に履修上限単位数の上限を設けることについて、今後の検討の予定

教	賛成。同時に授業科目も1,2年前期にわたって豊富なメニューが提供されることが望まれる。	教
---	---	---

問1-3.

問1-3. 学部専門教育についての今後の検討の予定

北セ	フィールド施設を使用した学部専門教育を積極的に展開していきたいと考えている。	北セ
----	--	----

問2-1.

問2-1. 「論文指導」、「一般教育演習」の整備・充実について

留	<p>(意見1) 現在「一般教育演習」の一部が「論文指導」をかねるかたちになっているが、「論文指導」を有効なものとするには、そのような片手間の形では不可能だと思う。他の大学で「文章指導」の講座を担当しているが、20名の受講生に文章指導するのでも、かなりの負担を伴う。本気で「論文指導」するならば、リソースを費やす必要がある。「中間報告」の中にある「人的資源は、責任部局の開講責任の中で調整する」という文言は、十分な補給（ロジスティック）なしに繰り広げられた、太平洋戦争中のインパール作戦を彷彿させる。</p> <p>(意見2) 「一般教育演習」は数を確保することと形式を均一化することに重点が置かれていて、多様な教育的試行を実現しうるものになっていない。具体的には、留学生と日本人学生のインターアクションを促進する内容を展開したくても、抽選で留学生が全員はねられたら授業の目標が達成できなくなるのに、そのような、教育上の必要に基づく弾力的な運用ができない、と言った問題がある。このような点は改善する必要がある。（註：留学生センターは過去の点検評価報告書の中で、「一般教育演習」において上記のような性格の授業を展開することの必要性を訴え続けてきている。）</p> <p>(意見3) 「中間報告」p.5に「分野別科目と一般教育演習の論文指導において基礎学力の育成を図るとともに、複合科目、基礎科目において、一定の共通化、体系化をめざすこと」とあるが、むしろ「一般教育演習」と「複合科目」「基礎科目」との連続性・整合性を再検討する時期に来ているのではないか。</p> <p>(意見4) 今後「論文指導」を増やすとしても、担当教員の人的資源の余力、添削の作業負担受認等には限界がある。そこで一つの提案であるが、民間の「日本語作文小論文検定」「日本語文章能力検定」1級取得者（インターネットホームページ有り）には、「論文指導」を履修したのとして単位認定することはできないか。また、上記検定の一部が最近はいくつかの企業で評価されるようになってきている実態を考えると、「論文指導」もアカデミックな方向に限定せず、このような検定試験対策を就職へのインセンティブとして考える必要もあると思う。（「北海道大学」の授業としてそんなものは却下、という見方が大勢を占めるであろうが、一部私立大学ではこれらの検定試験対策の授業も所謂「文章表現」的技能のクラスとして実施されている事例がある。）</p> <p>(意見5) 協力の学科提出。</p>	留
北セ	環境科学院と連動して、環境に関する「論文指導」と「一般教育演習」を整備・充実させたいと考えている。	北セ

問2 - 3 .

問2 - 3 . 複合科目の中に文系共通基礎的な授業科目を設けることについて、特に科目提供の可能性について	
留	複数教員が担当するから複合科目という定義はおかしい。これは分担科目というべき。学科内容が真に複合であるなら学際科目としてもよい。
	留

問3 - 1 .

問3 - 1 . 「入門科目」の設定についてWG提示案以外の希望	
北 セ	環境問題に対応できる科目も設けたほうが良い。
	北 セ

問3 - 2 .

問3 - 2 . 学部(学科・コース)別の「基礎科目」コース(専門系/準専門系)選択および提供可能な「互換性科目」									
北	物理学		化 学		生 物 学		地 学		北
	-	-	-	-	専門系[互換性科目]		-	-	
	「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【 - - - 】		「互換性科目」の提供【あり】 環境生物学		「互換性科目」の提供【 - - - 】		

問3 - 3 .

問3 - 3 . 広い意味で提供可能な「互換性科目」						
北	物理学	化 学	生 物 学	地 学	数 学	北
	-	-	広義の「互換性科目」【あり】 環境生物学	-	-	

問4 - 1 .

問4 - 1 . 「コアカリキュラムの一部」としての「融合型」の「自然科学実験」について	
北 セ	導入した方が良い。
	北 セ

問5 - 1 - 1 .

問5 - 1 - 1 . 英語新カリキュラム(案) - 1年次開講の「英語」について	
留	(意見1) 学部に入学者の外国人留学生の英語のケアも考えなければならない。日本人に教えるようにはいかないと思う。 (意見2) 語学の授業は1学科最低週3回(各1時間)必要。人数は20人まで。
北 セ	国際性を養うために、原案どおりで良いと考える。
	北 セ

問5 - 1 - 2 .

問5 - 1 - 2 . 英語新カリキュラム(案) - 自学自習のCALL授業, TOEFL-ITP試験による単位認定について	
留	TOEFL-ITPが入学時に550(PBT)なら, 単位認定し, 授業の必要なしとする。また550点(PBT)を卒業要件とする。
北 セ	積極的に導入すべきであるとする。

問5 - 1 - 3 .

問5 - 1 - 3 . 英語新カリキュラム(案) - 「英語演習」について, 「英語演習」への学部教員の支援・協力の可能性について	
北 セ	当センターではHUSTEP授業を2つ開講しており, 積極的に協力できる。

問5 - 2 .

問5 - 2 . 「初習外国語」について	
留	現在, スペイン語入門, 初級を担当しているが, 私の知る限りこの10年, スペイン語の中級や上級は開講されていない。初級修了の学生からなぜ中級や上級がないのか問いつめられる。スペイン語は履修者が多いのであるから充実させるべきだと思う。

問6 - 2 .

問6 - 2 . 統計学について	
北 セ	統計学は重要なので, 基礎をしっかり教えるべきである。

問6 - 2 .

問6 - 3 . その他の共通科目について	
教	体育学科目において, スポーツ科学全般の知的素養を高めるための講義形式科目の開設を検討している。

問7 .

問7 . 平成18年以降の教育課程全般について	
教	<p>1. 「中間報告」P5,9行目, 8ページB理系科目について 一般教育演習は, 全系に開講され学生の基礎学力の科目レベルが多様であり, 基礎力の要請を図る科目とは性格が異なります。「一般教育演習」と「論文指導」の科目の性格が異なるにもかかわらずこの区別も最近曖昧にされつつある。</p> <p>2. 全学教育についての論議, 意見集約, 方針決定の在り方について かつての旧教養部時代は, 全学教育授業科目担当者や学部教務委員や学部授業担当者との間で直接懇談する機会が定期的に行われ, 率直な意見交換の中で授業の目的, 内容, 評価について相互理解が進み, 全学教育の重要性が認識されていた。その成果が「教養課程協議会資料集」のとして蓄積され公開されていたことは周知のことである。全学教育体制の初期の頃も, 「全学教育のレビュー」の科目懇談会としてこのような場が設定されていた。最近はこのような機会なしに上部の委員会の論議やアンケート形式で重要な意思決定が進められていることについて再考を促したい。「平成11年度告示学習指導要領」や「大きく入り入試」などの問題は, 高校教員, 全学教育担当者, 学部教育担当者が一堂に会し, 生の声をぶつけ合いながら論議する場も必要ではないか。</p>
北 セ	高校の教育課程の見直しに対応して, 北大が目指す教育の特色を明瞭に示し, 北大を受験する高校生を増やす努力をすべきである。